

# ピロリテック<sup>®</sup> テスト キットの操作方法



## 始める前に…

■ 初回開栓までは冷蔵保存です (2~8℃)。

- 初回使用する前に、常温 (15~25℃) 下に1~2時間放置し、キットを常温に戻してから使用してください。

■ 初回開栓後は常温保存です (15~25℃)。

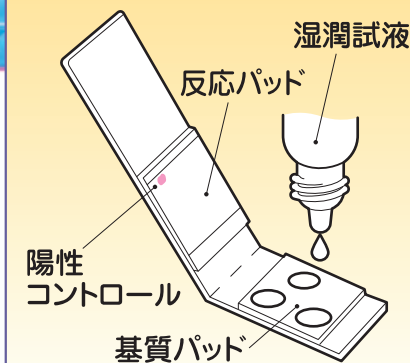
- 試薬ストリップの容器ラベルに最初の開栓月日を記入してください。
- 初回開栓後180日又は使用期限のどちらか早い期限内に使用してください。
- 容器は常に密栓してください。  
※ 湿気の影響により試薬ストリップが劣化し、陽性コントロール、生検検体以外の部分で呈色する場合があります (裏面反応例 注意2)。

■ 試験は常温で行います。

1

- ① 反応パッド上の陽性コントロール (赤色スポット) を確認します。
- ② 試薬ストリップが内側を向くようにミシン目を折り曲げます (図1 参照)。
- ③ 湿潤試液4滴を、基質パッド全体が均一にしみわたるように滴下します。
  - 1) 過剰に滴下した場合、陽性コントロールの呈色に影響を与える場合があります (裏面反応例 注意1)。
  - 2) 滴下量不足の場合は、陽性コントロールや検体が、全く呈色しない場合があります。

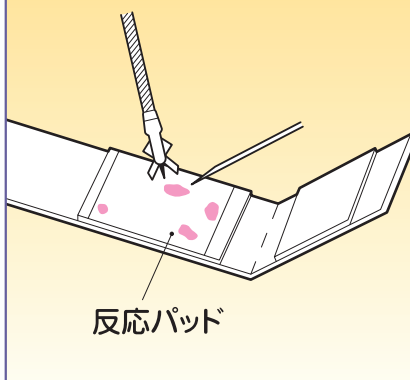
図1



2

- ① 清潔な木製スティック等で、生検組織を鉗子から直接反応パッド上 (上下各7mm内側) に押し出します (図2 参照)。
  - 1) 生検組織は、陽性コントロールスポットや、他の検体から6mm以上離します。
  - 2) 生検組織は3部位まで部位別に検査可能です。

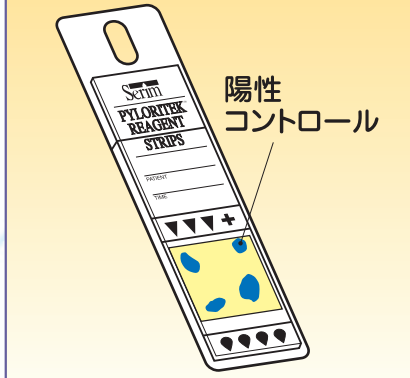
図2



3

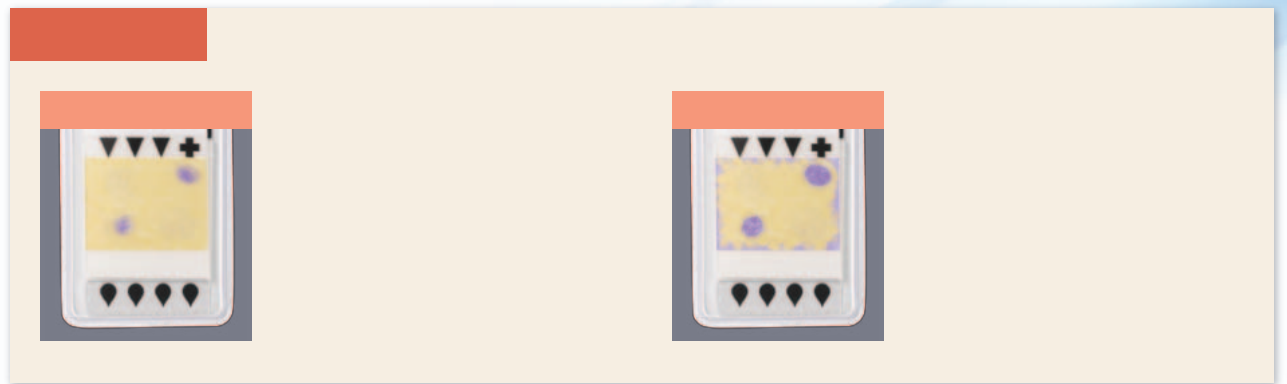
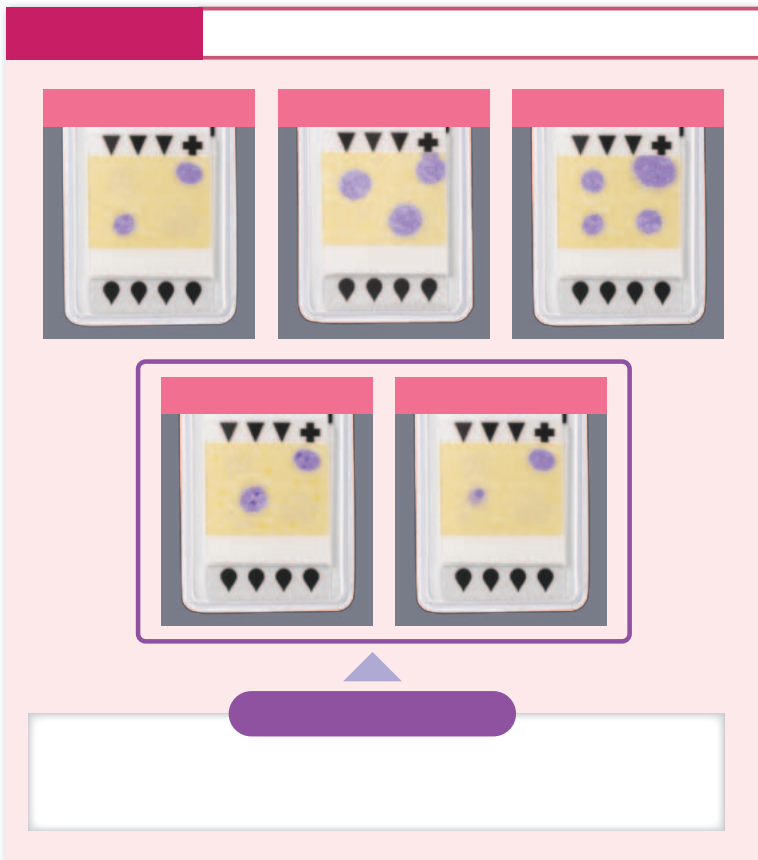
- ① 試薬ストリップを折り曲げ、基質パッドを生検組織の上に重ね、黄色の面を表にして反応ポーチの底まで差し込みます (図3 参照)。
- ② 患者の氏名と時刻を所定の欄に記入します。

図3



4

- ① 反応パッド (黄色部分) 上の色調変化を60分以内に観察します (反応例は裏面)。
  - 1) 陽性コントロール上 (反応パッドの右上) の青色斑点を確認後、同等の青色が検体上に生じたとき陽性と判定します。
  - 2) 60分後検体上に青色がないときは陰性と判定します (薄青色やグレー色は陰性)。
  - 3) 60分経過後の呈色は陰性とします。
  - 4) 反応パッド上の本来の黄色が陰性コントロールです。
  - 5) 反応ポーチはタテ又は水平におくことができます。



陽性コントロールの青色呈色の形状やサイズは、様々です。